

科学研究費助成事業 研究成果報告書

平成 29 年 5 月 31 日現在

機関番号：15401

研究種目：基盤研究(B) (一般)

研究期間：2014～2016

課題番号：26280123

研究課題名(和文) 広島における核・被ばく学研究基盤の拡充に関する研究

研究課題名(英文) Study on 'nuclear and atomic bomb survival' in Hiroshima

研究代表者

小池 聖一 (KOIKE, SEIICHI)

広島大学・国際協力研究科・教授

研究者番号：70274024

交付決定額(研究期間全体)：(直接経費) 12,200,000円

研究成果の概要(和文)：本研究は、医科学及び放射線物理学に較べて相対的に立ち遅れている人文科学・社会科学分野の拡大と、その史料的基盤の拡充を目的とした。その成果として、最終報告書及び基盤拡充としての中間報告書として資料目録を5冊・図録1冊を刊行した。また、国際シンポジウムを開催するとともに、社会貢献事業としての企画展示も行った。

研究の結果、具体的な学術業績にあるように研究は深化した。同時に、最初の被爆地である広島での「平和」は、拡散の起点ではなく、「人間的悲慘さ」の集約点として存在すべきであるとの認識に達した。しかし、国際的な情報発信能力の充実、横断的な研究の実施、社会への還元が次なる課題として残っている。

研究成果の概要(英文)：This research's purpose was to expand the fields of humanities and social sciences, which are behind in comparison with medical science and radiation physics, and to expand the historical basis. As a result, we published final report, five Article catalog and one catalog of materials Planned exhibition catalog. In addition to holding an international symposium, we also organized a planned exhibition as a social contribution project.

As a result of the research, the research has deepened as in concrete academic achievements. At the same time, "peace" of Hiroshima which is the first hibakuchi is not the origin of diffusion, It should have existed as a point of aggregation of "human misery". However, improvement of international information dissemination capability, implementation of cross-sectional research, and return to society remain as the next task.

研究分野：日本近現代史

キーワード：原爆 被爆 広島 平和 日本近現代史 アーカイブ アーカイブズ

1. 研究開始当初の背景

原爆投下直後の状況に研究が集中するなか、その後の被爆者援護活動・原爆白書運動等に関する人文科学・社会科学的研究は手薄であり、史資料の整備も不十分であった。このため、研究会を組織し、同時に広島大学文書館と類縁機関(広島大学平和科学研究センター、広島市立大学広島平和研究所、広島大学総合科学部)との関係を調整し、相互協力関係を構築しつつ、研究を開始することとした。

2. 研究の目的

核・被ばく学として相対的に研究が遅れている人文科学・社会科学的研究を促進させるとともに、そのための史資料による基盤の拡大を行い、研究の学際化・総合化を深化させることを目的とした。

3. 研究の方法

研究会を研究班と資料班に分け、研究班は、核・被ばく学の充実と深化を、資料班は、目録刊行を一つの目的としつつ、史資料の収集・整理・公開を行った。史資料の収集は、一次資料を中心とし、資料班は、広島大学文書館において史資料の整理・公開作業を行った。研究班は、研究会を開催して、研究報告とともに、意見交換を行い、研究の深化を図った。

4. 研究成果

最終報告書を刊行するとともに、中間報告書として目録2冊を刊行。被爆70周年にあたり、国際シンポジウムを開催するとともに、企画展示「原爆白書運動と広島大学」を開催した。報告書としては、下記の4冊を刊行した。

報告書

1. 『広島における核・被ばく学研究基盤の拡充に関する研究』広島大学文書館、平成26年度科学研究費補助金(基盤B、課題番号26280123)研究成果報告書、p.121、2017年2月

2. 『企画展 原爆白書運動と広島大学』広島大学文書館、平成26年度科学研究費補助金(基盤B、課題番号26280123)研究成果中間報告書、p.101、2016年7月。

3. 『広島大学文書館所蔵大牟田稔関係文書目録 書籍・雑誌編』平成26年度科学研究費補助金(基盤B、課題番号26280123)研究成果中間報告書、p.369、2016年2月

4. 『広島大学文書館所蔵大牟田稔関係文書目録 個別編』平成26年度科学研究費補助金(基盤B、課題番号26280123)研究成果中間報告書、p.266、2015年2月

5. 主な発表論文等

(研究代表者、研究分担者及び連携研究者には下線)

[雑誌論文](計19件)

1. 水本和実, 停滞する核軍縮と日本の課題, インテリジェンス・レポート, 96号、査読有、2016、pp4-21

2. 水本和実, 核兵器の非人道性と戦争の非人道性, 日本赤十字国際人道研究センター, 人道研究ジャーナル, Vol.5、査読有、2016、pp32-47

3. 水本和実, 被爆国日本の役割, 広島市立大学広島平和研究所監修、吉川元・水本和実編, なぜ核はなくなるのか, 法律文化社、査読有、2016、p203-221

4. 小池聖一, 国立大学法人にとっての大学文書館, 東京学芸大学大学史資料室報, vol.3、査読無、2016.4, pp.8-18

5. 石田雅春, 広島大学文書館における個人文書の所蔵・公開状況について—著作権法とアーカイブズの関係を中心に—, 広島大学文書館研究叢書, 2、査読無、2016, pp3-12

6. 小池聖一, 大学アーカイブズの可能性, 情報の科学と技術, Vol.66 No.4、査読有、2016, pp.148-152

7. 竹峰誠一郎・川野徳幸・Talgat MULDAGALIYEV・Kazbek APSALIKOV, 旧ソ連核実験によるセミパラチンスク核被害者に対する社会的保護法の概要, 『広島平和科学』37、2015、pp69-93、査読有

8. Noriyuki Kawano, Experiencing the Atomic Bombing and Survivors' Personal Perspectives on Peace, the "Hiroshima for Global Peace" Plan Joint Project Executive Committee (ed.), *Learning from Hiroshima's Reconstruction Experience: Reborn from the Ashes*, 2015, pp172-192, Hiroshima Prefecture and The City of Hiroshima, 査読有

9. 松浦陽子・佐藤健一・川野徳幸, 長崎の平和観—長崎平和宣言頻出単語の解析を通して—, 広島平和科学, 36、査読有、2015, pp75-100

10. 和泉志津恵・佐藤健一・川野徳幸, 経時的に観測されたテキストデータに対する変化係数モデルに基づく統計的な分類方法と視覚化について, 計算機統計学, 第28巻第1号、査読有、2015, pp81-92、

11. Yoshiyuki Nakao, Akiyuki Jimura, and Noriyuki Kawano, Choice and Psychology of Negation in Chaucer's Language:

Syntactic, Lexical, Semantic Negative Choice with Evidence from the Hengwrt and Ellesmere MSs and the Two Editions of the Canterbury Tales, HIROSHIMA STUDIES IN ENGLISH LANGUAGE

AND LITERATURE, 2015, pp1-34, 査読有

12. 水本和実, 核兵器の現状と被爆体験, 広島市立大学広島平和研究所編, 平和の創造とは—平和研究の過去・現在・未来, 広島市立大学広島平和研究所、査読有、2015、pp70-90

13. 水本和実, NPT再検討会議と日本の核軍縮外交—被爆地の役割とは?, インテリジェンス・レポート, 83号、2015、pp63-79、査読有

14.水本和実『北朝鮮の3度目の核実験と停滞する核軍縮—2013年の核をめぐる動向と論調』『広島平和記念資料館資料調査研究会研究報告』第11号、2015、pp43-58、査読無

15.Jaroslav KRASNY・Noriyuki KAWANO, Weapons of Mass Destruction and the Principle of Unnecessary Suffering: The Use of Nuclear Weapons in an Armed Conflict, *Hiroshima Peace Science* 36, 2014,101-116、査読有

16.Kyoko HIRABAYASHI, Noriyuki KAWANO, Talgat MULDAGALIYEV, Kazbek APSALIKOV, The psychological effects and their factors among inhabitants around the Semipalatinsk Nuclear Test Site: Results of questionnaires and interview surveys from 2002 until2012, *Japanese Review of Political Society*, Vol. 2,2014, pp7-19、査読有

17.水本和実,問われる核兵器の非人道性—2012年の核をめぐる動向と論調,広島平和記念資料館資料調査研究会 研究報告,第10号、2014、pp85-99、査読無

18.石田雅春,アメリカ軍の広島県進駐と大久野島毒ガス廃棄,日本歴史,795号、査読あり、2014,pp54-71、査読有

19.布川弘,広島の都市形成と第五師団,坂根嘉弘編,『地域のなかの軍隊5 中国・四国 西の軍隊と軍港都市(吉川弘文館)』、査読有、p16-40 2014

〔学会発表〕(計13件)

1.Stepanenko V, Rakhypbekov T, Ohtaki M, Otani K, Satoh K, Kawano N, Shichijo K, Nakashima M, Takatsuji T, Sakaguchi A, Kato H, Onda Y, Fujimoto N, Toyoda S, Sato H, Dyussupov A, Chaizhunusova N, Sayakenov N, Uzbekov D, Saimova A, Shabdarbaeva D, Azimkhanov A, Kolbayenkov A, Kairkhanova Y, Kaprin A, Ivanov S, Kolyzhenkov T, Zhumadilov K, Petukhov A, Hoshi M, Modeling of beta-irradiation following Hiroshima A-bombing: results of internal dose estimations in experimental animals exposed to neutron activated ⁵⁶Mn powder. The 20th Hiroshima (Miyajima) International Symposium 2016, January 10-11, 2016、広島県宮島

2..Seiichi KOIKE, University Archives in Japan, International Conference on Digital Archives and University History, November 29-30,2016 National Taiwan Normal University. 【Invited】、台湾・台北市

3.Noriyuki Kawano, Outline of Atomic-Bomb Affliction, focusing on Mental Effects / Social discriminations, International Conference, Seventy Years After Hiroshima: Conceptualizing Nuclear

Issues in Global Contexts, Prince Takamado Japan Centre, University of Alberta, Canada, 18-19 September 2015【招待講演】、カナダ

4.T. Imanaka, S. Akashi, N. Kawano (12th), other 22 members, Initial External Radiation Dose to Residents in Iitate Village until Evacuation Due to the Fukushima-1 NPP Accident, Timofeev-Ressovsky International conference, JOINT INSTITUTE FOR NUCLEAR RESEARCH, Moscow, Russia, June 2-6, 2015、ロシア、モスクワ

5.Hiroshi Nunokawa, Venereal disease and social structure: Hiroshima immediately following defeat in World War II, May 2, 2015, The 88th Annual Meeting of the American Association for the History of Medicine, Omni New Haven Hotel at Yale, New Haven, USA アメリカ

6.小池聖一,国立大学における学校アーカイブの可能性と課題—広島大学を事例として—,国立大学法人における学校教育アーカイブの課題と展望、東京学芸大学大学史資料室主催国内シンポジウム、2015年10月6日、東京学芸大学

7.川野徳幸,核の脅威:原爆被爆被害を通して、日本物理学会 第70回年次大会、早稲田大学、2015年3月22日、東京

8.永井均,広島の復興経験を伝えるヒント—「広島の復興の歩み」の監修を通して、広島の復興に関する第3回勉強会、ひろしま国際センター交流ホール、2015年7月22日、広島

9.Akiyuki Jimura, Yoshiyuki Nakao, Noriyuki Kawano, Kenichi Satoh, A Computer-assisted Textual Comparison among the Manuscripts and the Editions of *The Canterbury Tales*: With Special Reference to Caxton's Editions, The 19th Congress of the New Chaucer Society, Reykjavik,Iceland, 18 July, 2014

10.Hiroshi Nunokawa, The Supreme National Interest?: War and Hygiene System at the Dawn of Twentieth Century, Society for Social History of Medicine, 10-12 July 2014, St. Ann College,University of Oxford, UK

11.川野徳幸,原爆体験と原爆被爆者の平和観、ひろしま復興・平和構築研究事業発表会(広島県主催) 広島県情報プラザ(広島市) 2014年10月11日

12.川野徳幸,「ヒロシマ」という思想—そして、これからの「ヒロシマ」,国際シンポジウム「混沌とする世界における国際機関の強化—広島の実たす役割は—」(広島大学平和科学研究所/新潟県立大学共催) 広島国際会議場、2014年11月21日

13.小池聖一,大学文書館の再構築,広島大学文書館設立十周年記念パネルディスカッション、2014年7月8日、広島大学

6. 研究組織

(1) 研究代表者

小池 聖一 (KOIKE SEIICHI)
広島大学・大学院国際協力研究科・教授
研究者番号：70274024

(2) 研究分担者

布川 弘 (NUNOKAWA HIROSHI)
広島大学・大学院総合科学研究科・教授
研究者番号：30294474

水本 和実 (MIZUMOTO KAZUMI)
広島市立大学・広島平和研究所・教授
研究者番号：20305791

永井 均 (NAGAI HITOSHI)
広島市立大学・広島平和研究所・教授
研究者番号：40347620

川野 徳幸 (KAWANO NORIYUKI)
広島大学・平和科学研究センター・教授
研究者番号：30304463

石田 雅春 (ISHIDA MASAHARU)
広島大学・75年史編纂室・准教授
研究者番号：90457234

小宮山道夫 (KOMIYAMA MICHIO)
広島大学・国際室・准教授
研究者番号：60314720